『リーベ』初優勝

シイラ14.2キロ

志摩ビルフィッシュトーナメント

三重・大王崎沖

26艇120人が参加

50キロ以上の大物カジキをメインターゲットにトローリングの腕を競う「第3回志摩ビルフィッシュトーナメント」（中日スポーツ共催）は8月28、29日、三重県志摩市大王町の波切漁港を拠点に、大王崎沖の太平洋で行われ、26艇120人が参加した。7月下旬、鳥羽沖で大爆釣が伝えられた同魚だが、1カ月たって状況は一変。残念ながら2日間で1匹も上がらなかった。審査対象魚としては、10キロ以上のシイラが30日、辛うじて2匹持ち込まれただけ。優勝したのは愛知県大口町の鈴木守秋さん（50）がキャプテンを務める「リーベ」。2位には昨年覇者、桑名市の市川隆之さん（48）が率いる「チーム隆丸」が入った。（海老原秀夫）

シイラ14・2キロを上げ優勝した「リーベ」のメンバー＝三重県志摩市大王町の波切漁港で

カジキ残念不発

黒潮分流＆ベイト消滅響く

二つの条件が合致すると、カジキは釣れ盛るといわれる。一つは黒潮分流（枝潮）が遠州灘方面から反時計回りに入ってくること。もう一つはその時、その海域にベイトが豊富なことだ。

7月30日付の「ぐるっと北勢～三河」で珍現象として紹介した表浜（田原市）のソウダガツオ回遊は、記憶に新しいところ。実はあれこそ黒潮分流に乗ってきたものだった。第四管区海上保安本部が7月16日に発表した海洋速報（同8～14日観測）を見れば、分流が流れ込んでいる様子は明らか（図参照）。カジキもこのソウダガツオを追って大挙、伊勢湾沖に入ってきていた。

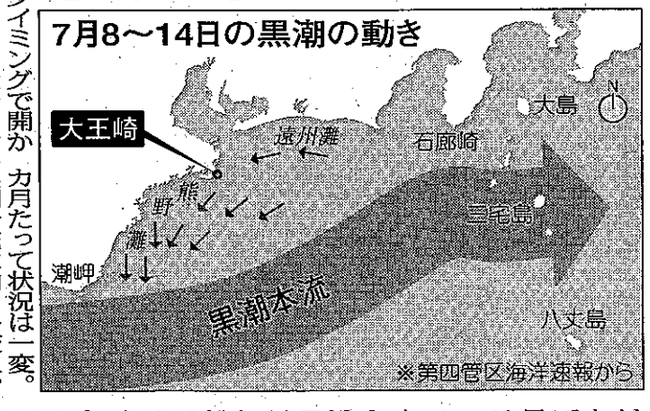
このころ、鳥羽沖ではベイトとなるサバがわいており、カジキの群れもそこに居座る形に。運良くこのタイミングで開かれたのが鳥羽の大会。釣れっぷりはすさまじく、2日間で何と69匹のカジキがランディング。ヒット数は200以上に及んだという。

しかし、これほどの好条件はそう長続きするものではない。案の定、1カ月たって状況は一変。黒潮分流は向きを変え、サバの群れも消滅。残念ながらカジキは完全に去った後だった。今大会、延べ52隻でルアーを引いたものの、魚影を目撃できたのは、東方の「高松堀」でバラしたとされる1匹だけ。それがすべてを物語っていた。

カジキにとって最悪といわれる緑潮（水潮）も散見されたという。思えば、梅雨最後の豪雨による大量の雨水が、菅島などのイカダを直撃したのは7月下旬。それがはるか沖の太平洋にまで流れていくには、さらに1カ月の時間を要したということなのだろう。

初優勝を飾った「リーベ」は、操船していた名古屋市中村区の五島嘉豊さん（46）の判断で潮目に沿って安乗沖を南下。30日11時半、浮遊物に着く14・2キロのシイラを上げたのが、幸運を呼び込んだ。「もちろん、カジキで勝ちたかったのが本心ですが、いない以上、シイラでもうれしく思います」と鈴木キャプテン。五島さんは「操船した私の手柄でしょう」と冗談ぽく笑い、喜びをかみしめていた。

連覇を狙っていた「チーム隆丸」は惜しくも2位。「長島堀」で10時に取り込んだシイラは11・2キロだった。「鳥羽と志摩の大会は、一方がいいと他方がダメというパターンになりやすく、覚悟はしていましたが、ベイトがトビウオだけではお手上げでした。カジキは気まぐれですから」と、市川キャプテンはサバサバしていた。



落水＆心肺蘇生法を体験

愛知県常滑市で安全講習会に78人

開会式前に海中＆陸上清掃も

帰後、ゴミを前に全員で記念撮影

「釣り人の安全講習会」（JOFI愛知主催）は7月29日、愛知県常滑市の「りんくう釣り護岸」で開かれ、78人が参加した。全員が最後まで熱心に聴講し、その姿にはJOFI愛知の大田豊明代表ら主催者側も圧倒された。

開会式前には中部日本潜水連盟所属のダイバー8人による海中清掃とともに、JOFIメンバーが行った陸上清掃にも加わってくれた。

ライフジャケット有用性を認識!!

第四管区海上保安本部、中部空港航空保安基地、常滑市消防本部から講師を迎えての講習会は午前10時、幕を開けた。メーンイベントは落水体験。まずは比良海上保安官から海辺の事故の怖さについての講話と、落水者の救助方法についてのレクチャーがあった。

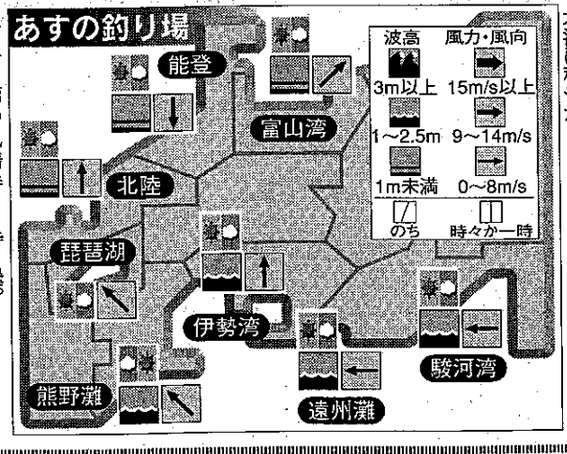
次にライフジャケットのメーカー、高階救命器具（大阪市浪速区）の井関次長が製品の特徴や耐用年数などを紹介した後、落水体験がスタート。体験者は事前に問診、体温測定、準備体操を済ませて準備万端。ライフいはず。いかに泳げないか、苦しいかを体感し、ライフジャケットの有用性を認識してもらうのが最大の目的。落水体験者8人は真剣に取り組み、岸壁上の皆さんも真剣なまなざしで見守った。ライフジャケットを着けずに落水すると、言うまでもなく落命の確率は高まる。砂浜以外では着用の徹底を呼びかけたいものだ。

休憩後は常滑市消防本部から指導を受け、意識不明者の心肺蘇生（そせい）法とAEDによる蘇生法にトライ。人形を相手に技能の習得に励み、全員がマスターした。

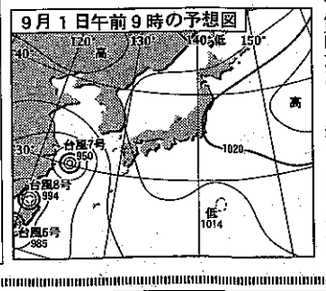
午後1時、すべての講習を終え、最後は実行委員長であるJ

落水体験をした人ならライフジャケットの有用性は明らか

あすの釣り場



概況　1日は、高気圧に覆われる。東海・北陸ともに、よく晴れて残暑が厳しい。午後は、山間部で雨や雷雨があり、激しく降る所がある。太平洋・日本海ともに比較的穏やか。2日も、高気圧に覆われる。東海・北陸ともに多少雲が広がる程度で、おおむね晴れる。太平洋は、うねりを伴い波がやや高い。日本海は穏やか。



師崎　南の風晴時々曇。波高0・5～1メートル。
八幡　南の風晴時々曇。
尾鷲　曇時々晴。波高1・5～2メートル。
御前崎　東の風晴時々曇。波高1・5～2メートル。
清水　北東の風晴時々曇。波高1～1・5メートル。
諏訪　北のち南の風晴時々曇。
敦賀　南の風晴時々曇。波高0・5メートル。
福井　南のち北の風晴時々曇。波高0・5メートル。
加賀　東のち北の風晴時々曇。波高0・5メートル。
富山　晴時々曇。波高0・5メートル。
彦根　南東の風晴時々曇。

釣

場所	魚種
伊良湖沖（河和）	マダイ
伊良湖沖（大井）	アジ
伊良湖沖（片名）	タチウオ
伊良湖沖（師崎）	マサキ
伊良湖沖（師崎）	マアジ
伊良湖沖（師崎）	イサキ
伊良湖沖（師崎）	マダイ
伊良湖沖（師崎）	イシモチ
笠志島沖（答志島）	マダイ
笠志島沖（答志島）	マダカ
石鏡沖（鳥羽石鏡）	マダイ
石鏡沖（鳥羽石鏡）	サワラ
国崎沖（鳥羽国崎）	マアジ
国崎沖（鳥羽国崎）	サバ
鷹巣沖（鷹巣）	マダイ
鷹巣沖（鷹巣）	ワラサ
越前沖（越前）	マダイ
越前沖（越前）	マイカ
美浜沖（美浜草瀬）	マイカ
美浜沖（美浜草瀬）	マアジ
小浜沖（小浜）	マイカ
小浜沖（小浜）	アジ
小浜沖（小浜）	マイカ
小浜沖（小浜）	スルメイカ
大島沖（若狭大島）	マイカ
大島沖（若狭大島）	スルメイカ
大島沖（若狭大島）	マイカ
大島沖（若狭大島）	レンコダイ
牛島前（答志島）	クロダイ
大村島（鳥羽桟橋）	クロダイ
大村島（鳥羽本浦）	クロダイ
大村島（鳥羽本浦）	クロダイ
弁天島（鳥羽本浦）	クロダイ
馬の瀬前（志摩越賀）	クロダイ
迫子前（浜島迫子）	クロダイ
迫子前（浜島迫子）	グレ
養殖場前（紀北引本）	クロダイ
養殖場前（紀北引本）	シマアジ
養殖場前（紀北海山）	クロダイ
養殖場前（紀北海山）	キビレ
池前（三木浦）	クロダイ
池前（三木浦）	マアジ
大曽根前（大曽根浦）	ワラサ
平（尾鷲吉江）	クロダイ
松（尾鷲吉江）	マダイ
大浦（若狭本郷）	クロダイ
涙（若狭大島）	クロダイ
水（若狭大島）	クロダイ
亀崎港（半田）	ハゼ
半田運河（半田）	ハゼ
米島（大紀錦）	カワハギ
米島（大紀錦）	メイタイ
ドンビ（尾鷲梶賀）	イシダイ
巴川（豊田）	アユ
益田川（下呂）	アユ
名張川（名張）	アユ
長瀬太郎生川（津）	アユ

筏・カセ

船

磯など

川・湖・池